令和３年度　２学期始業式　式辞

R3.8.27

夏の終わりを告げるツクツクボウシの声とともに、２学期が始まりました。先月２１日、ここで雄中生のみなさんと一緒に１学期を締めくくった日から３６日間、みなさんはどんな夏休みを過ごしましたか。部活動の練習や大会に汗を流し、心と身体を鍛えあげてきた人、日頃はできない自然体験等を通して、興味や関心の幅を広げてきた人、読書や学習・自由研究等にじっくりと取り組み、知力や学力を高めてきた人。みんなそれぞれに意味ある時間を過ごし、一回り大きくなって学校に戻ってきてくれたことをうれしく思います。

今年の夏休みは、世の中全体を見ても、大きな出来事がいくつもありました。前半は、やはり東京オリンピック。コロナ感染のため開催そのものが危ぶまれていましたが、世界中から１万人を超えるアスリートが参加し、連日、ひたむきに競技に挑む姿が報道されました。コロナによる１年延期という異例の事態に直面してもなお鍛錬を重ね、多くの困難と制約を乗り越えて東京に集った各国の選手達。金メダルという頂点を目指して超一流の力と技をぶつけ合う姿、そして競技後の滴る汗と涙は、勝敗に関わらず人々に大きな感動を与えるものでした。

私は、その選手たちの弾ける笑顔や悔し涙をテレビで見ながら、自然と雄中生のことを思い浮かべていました。雄山中学校の子供たちも、この若者達のように、一つのことに全力を傾け、幾多の困難を乗り越えて、諦めることなく挑戦し続ける人に育ってほしい。学校生活を通して心身共に逞しく成長し、それぞれの分野で社会に役立ち、輝く存在になってほしい。いつしかそんな祈るような気持ちでテレビを見ていたのです。

そして、１学期終業式の意見発表で、３年生の本多凪くんが話してくれた言葉「結果を恐れず挑戦することはとても大事です」というその言葉を思い出していました。そう、学校は失敗するところ、失敗してもよいところです。失敗しても、そこから学べばよいのですから。

人間誰でも、精一杯やってもうまくいかないことは当然あります。がんばって勉強したつもりでも思うような成績がとれないこともあれば、一生懸命練習したのに大会で負けてしまうことだってある。いつも思うような結果が出るとは限りません。だからと言って、いつまでも落ち込んでいたり、やる気をなくして諦めたりしていては向上も成長もありません。また、失敗が怖いからと言って何も挑戦しなければ、自分はいつまでたっても今の自分のままです。そこには成長したという実感もなければ、やり抜いたという達成感や自信も生まれることはないでしょう。

人は自力で挑戦し、粘り強くやり遂げたことからしか本物の自信は得られないのです。「自分はやればできる」と思える感覚を「自己効力感」と言います。何事にもチャレンジし、粘り強くやり抜くこと、その積み重ねが「やればできる」と思える確かな自信を作り上げるのです。

本多君はこのように締めくくってくれました。「僕は２学期もいろいろなことに**挑戦**します。２学期最後の日、楽しかったと言えるようにがんばっていきます。」

夏休み後半は、新型コロナ感染症の感染爆発が大きな問題となり、未だ出口が見えない状況が続いています。富山県独自の警戒レベル「ステージ３」と「まん延防止等重点措置」の適用を受け、中学校でも体育大会をはじめとする９月中の行事を、すべて10月以降に実施することになりました。今後どのような事態となるか先行きは不透明ですが、１学期同様、まずは日常の学校生活を精一杯充実させていきましょう。体育大会や合唱コンクール、修学旅行に代わる校外行事等も、時期や方法を考えて、できる限り実施する方向で考えていきます。

学校生活は、全校生徒と教職員、全員で創り上げていくものです。二度とは来ない令和３年度の2学期が、「最高に充実した学びの時間」となるよう、みんなで力を合わせてがんばっていきましょう。